

R7 農事メモ（第1号）

令和7年3月7日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
白山農業協同組合



白山石川グレードアップ米づくり運動！ おいしくてきれいな白山石川米を食卓へ届けよう♪



白山石川グレードアップ米づくり運動では、米づくりの基本となる10の技術を推進し、良質米の生産と安定した収量の確保を目指しています。

下の表で推進技術を確認し、しっかりと実践できているかチェックしましょう！

推進技術		目 標	チェック
	土づくり（春）	・土づくり資材の施用（前年秋に施用できていない場合） ・深さ15cmの深耕	
1	播種量（うす播き）	・1箱あたり120g（過剰生育の抑制）	
2	育苗日数（健苗育成）	・播種から田植えまで 1か月以内 （初期生育の確保）	
3	植付（細植え）	・1株あたり3～4本（適正茎数の確保） ・3cm程度の浅植え	
4	栽植密度（優良基確保）	・1坪あたり60株以上（晩植は70株） ・活着後の浅水管理2～3cm	
5	適正な施肥（登熟向上）	・高温登熟に対応した基肥一発施肥 ・生育状況に応じた追加穂肥の実施	
6	田植え時期（早植え防止）	・5月田植えの励行（過剰生育の防止）	
7	中干し・溝切り（遅発分げつの抑制）	・田植え 1か月後 から実施（過剰生育の防止）	
8	除草・防除	・春先から7月上旬までの除草管理徹底 ・生育ステージに合わせた適期防除の実施	
9	水管理（飽水管理）	・中干し後から出穂までの 約1か月 （コシヒカリ）飽水管理 ・出穂から刈取直前まで 1か月以上 の飽水管理	
10	刈取時期（適期刈取）	・籾の黄化に程度に応じた刈取り	
	土づくり（秋）	・稲わらをすき込む秋の田起こし ・深さ15cmの深耕 ・土づくり資材によるケイ酸不足の改善	

農事メモでは、これらのポイントを適時お知らせしていきます。

ぜひ実践して、品質向上、単収確保を目指しましょう！

1号は、播種準備、播種・出芽、育苗、本田準備についてです。

「健苗育成」のための的確な播種準備とこまめなハウス管理、本田準備を行いましょう！

栽培のポイント

営農のてびき3月～4月のページに該当します。
併せて確認しましょう。

1 播種準備

（1）床土準備：自家製の床土を準備する場合は、土壌pHは「pH.5」を目途に調整しましょう。

（2）種子消毒：効果を十分に発揮するため種籾一粒一粒を完全に浸漬しましょう。

薬剤名	希釈 倍数	対 象 病 害	使用 時期	使用方法	薬液温
テクリードC フロアブル	200倍	いもち病、ごま葉枯病、ばか苗病、褐条病、 もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、苗立枯病	浸種前	24時間 種子浸漬	10℃以上 15～18℃が適温

※環境に配慮し、廃液処理はイレートキット等を使用し適切に行いましょう。

（3）浸 種：浸種積算温度100℃以上を確保し、十分に吸水しましょう。

種 類	水温10℃	水温15℃
うるち米・酒造好適米	12日	8日
もち米	10日	7日

- ・R6年夏は高温であったため、R7年種子は休眠が深い。
- ・出芽揃いを良くするため、浸種水温や浸種積算温度を厳守！！

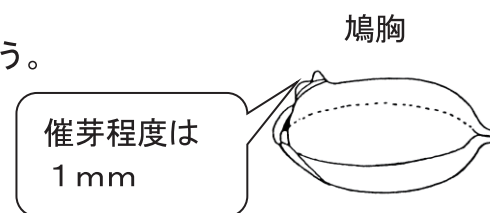
※発芽揃い向上のため、初日の水温は10～15℃の適温に保つ。

※浸種水量は種籾の2倍以上とし、2日ごとに水を交換する。但し、最初の2日間は水を交換しない。

※薬剤吹き付け種子の場合は、最初の3日間は水を交換しない。

（4）催 芽：斉一な出芽に向け芽出しのバラツキを防止しましょう。

催芽温度	28℃	30℃	32℃
芽が出るまでの時間	2.3日	1.9日	1.6日
幼根が出るまでの時間	2.8日	2.6日	2.1日



※循環式催芽機を使用する場合はもみ枯細菌病の発生を防止するため、水温が32℃を超えないこと。

2 播種・出芽

（1）播種

◎健全苗を育成するための適正播種量

種 類	乾籾（1箱当たり）
コシヒカリ ゆめみづほ カグラモチ	120g
酒造好適米	150g

◎育苗日数1ヵ月以内！

田植予定日から逆算して播種しましょう。

育苗等 作業	田植時期		
	5／5	5／10	5／15
催芽	4／11	4／19	4／26
播種	4／13	4／21	4／28
育苗日数	23日	20日	18日

（2）出芽

◎育苗管理を容易にするため、出芽を斉一にしましょう。

育苗器内温度	日数	出芽の目安
30～32℃	3日間	芽の長さ8～10mm



裏面もご覧下さい

3 育苗(ハウス管理)

(1) 緑化

緑化

3~5日

昼間20~25℃
夜間15~20℃

3~5日被覆
(遮光のため)

(朝7~8時)
水は土の乾燥をみて → 少し、またはやらない

○出芽直後の白い芽は直射日光に当たると白化するので、寒冷紗等遮光シートで被覆する。
○根の伸長を促すためにシート被覆前のかん水は控える。
○日中25℃以上に上がる場合は換気する。
○夜温が12℃以下の時は保温する。
○床土の表面が乾くまでかん水は控える。
◎出芽や緑化で芽を伸ばしすぎると腰高の苗となり、徒長しやすくなるので注意!! 緑化終了目安は 苗丈3~4cm

ハイホワイトシルバーは特に注意!

(2) 硬化

		水管理	留意点
硬化初期	6日	控え目 (緑化期の延長)	○初・中期 ※早期に冷たい風に当てないように注意する。
硬化中期	6日	原則1日1回 (早朝の気温の低い時に)	○中・後期 ※日中の高温に注意し、早朝から換気する。 ※田植え5~3日前から外気温に慣らし、極端な低温の恐れのない限り夜間もハウスを開けておく。 ※晴天時は床土が乾きやすいので、土が乾くようならば1日1~2回灌水する。

《被覆資材使用の目安》

ステージ	緑化期	硬化初期	硬化中期	硬化後期
日数	3~5日間	6日間	6日間	5日間
昼	○	△	×	×
夜	○	△	×	×

注)○は常時必要、△は必要に応じて必要、×は不要。

注意事項
※育苗日数 20~25日
※緑化期は30℃以上にしない。
硬化期は25℃以上にしない。
※最低8℃以下にしない。

気温が低く、晴天が多いと、低温障害やムレ苗が多発しやすい!
「水やり」と「ハウスの温度管理」は十分に注意!!

作業のポイントのチェック!!

- ☐床土のpHは適正でしたか?
- ☐浸種初日の水温を10~15℃に保ちましたか?
- ☐5月田植えとなる播種時期ですか?
- ☐育苗ハウスの温度は時期別に適正に保ちましたか?
- ☐播種量は適正でしたか?
- ☐計画的に土づくり資材の施用はしましたか?
- ☐耕起は目標15cmにできましたか?

4 本田準備

(1)土づくりの実施

- ①秋に実施できていない場合は、土づくり資材を散布し継続的な土づくりを行う。

(2)水稻根域を確保する耕起の目安は深さ『15cm』

- ①ロータリ耕の作業速度を落とし、作土深を確保する。
②乾いた状態で耕起する(過湿状態では耕深が浅くなりやすい)。
③ほ場の高低差が大きい場合は、耕起前に高い所から低い所に土を運んでおく。

(3)畦や地下浸透による漏水の防止

- ①畦めりや丁寧な代かきにより漏水の少ないほ場づくりに努める。
②特に大麦・大豆跡のほ場は地下浸透が大きくなっているため丁寧な代かきを行う。また、本田除草の効果を上げるため、均平な圃場づくりに心がける。
③代かきは浅水で行い、泥水や一発肥料のプラスチック被膜殻の河川流出を防ぐ。

◎育苗期間中の「障害」と対策

障害	症状	原因	対応と今後の対策
白化苗 (硬化期)	緑化しない、しにくい	出芽(暗出芽)期間が長い、出芽時の過高温、緑化初期の強光、緑化期の低・高温	完全な白化でなければ緑化期間中の過度な低・高温、強光を避け育苗継続
ムレ苗 (硬化期)	2葉期になった頃に葉が急に巻はじめ、次第に周囲に広がり枯死	床土のpHが高い、透水性が悪い、厚播き、急激な温度変化	過乾・湿や強風を避けて早めに移植(次年度以降の対策) ①極端な温度変化を避け、ハウス内夜温を8℃以下に下げない ②床土のpH、透水性を改善 ③厚播きや徒長苗にしない
老化苗・徒長苗 (硬化後期)	草丈・葉数・根の生育が停滞し、茎葉は褪色・黄化、下刈は枯れ上がる	厚播き、窒素過多、高温・多湿管理による育苗中の過繁茂、栄養不足、育苗の長期化	追肥して速やかに移植(次年度以降の対策) ①適正播種量厳守 ②育苗前期の伸長抑制、過剰生育防止 ③育苗日数の厳守

◎育苗期間中の「病害」と対策

病害名	薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数	使用方法
苗立枯病	ダコレート水和剤	400~600倍	は種時から緑化期 (は種14日後まで)	2回以内	1箱あたり500mL 灌注
いもち病		400倍	は種時	1回	
苗立枯病	タチガレエースM液剤	500~1000倍	は種時又は発芽後	1回	
苗立枯病	ナエファインフロアブル	1000~2000倍	は種時から緑化期	2回以内	

